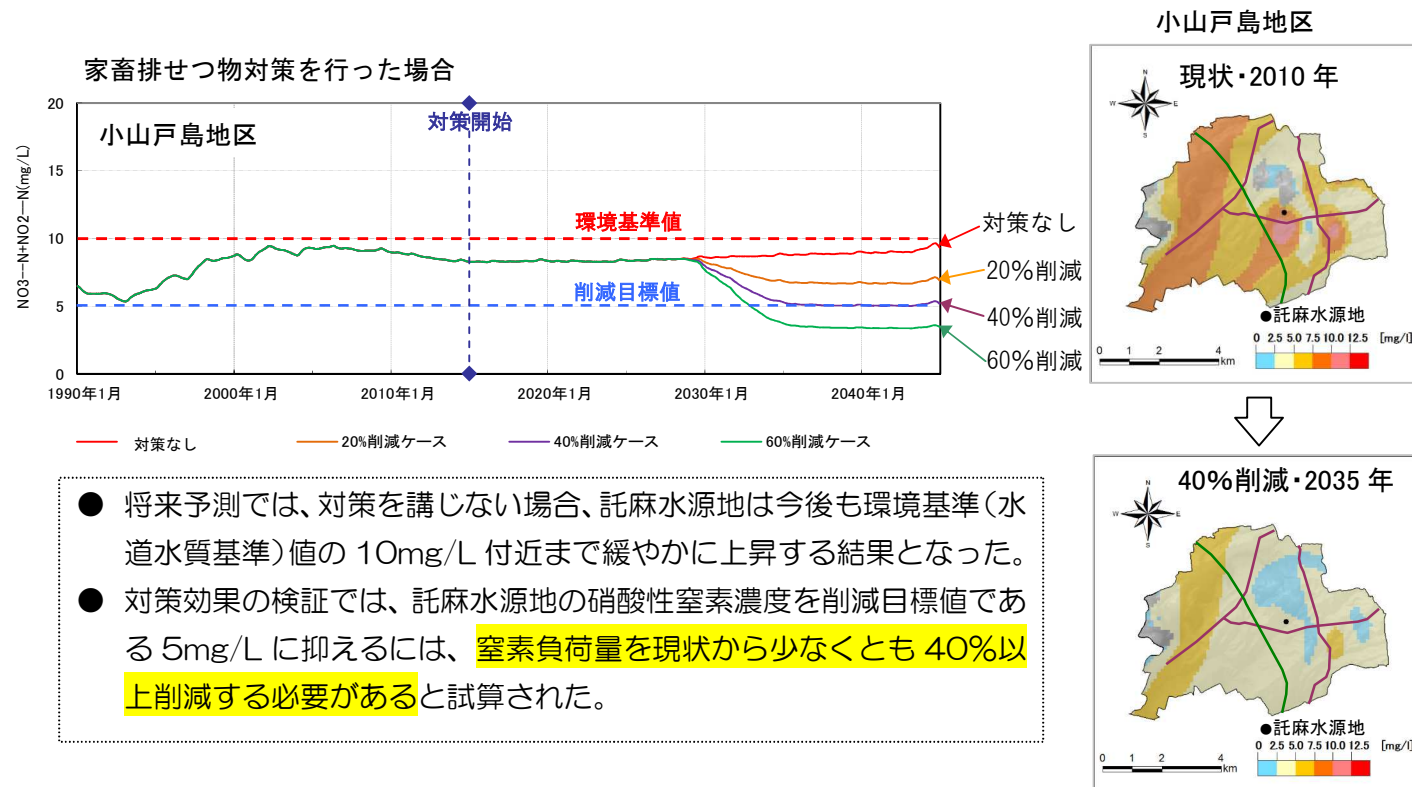
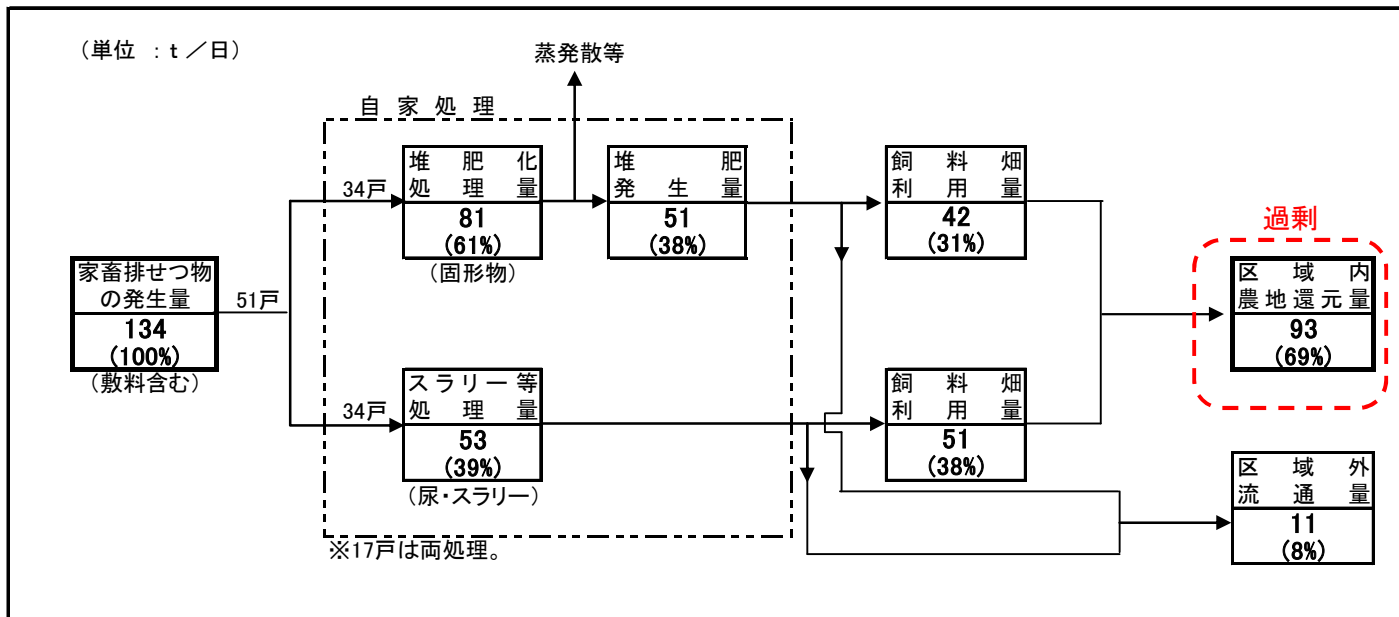


家畜排せつ物の適正処理施設の整備について

1. 硝酸性窒素シミュレーションによる将来予測・対策効果検証



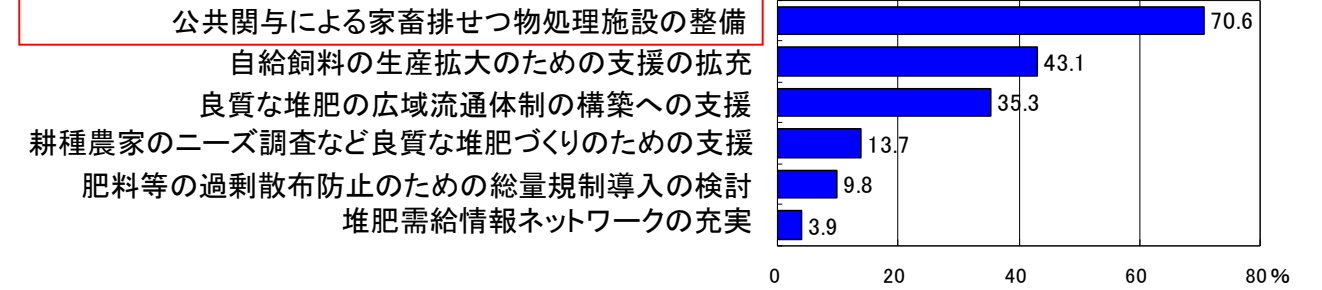
2. 家畜排せつ物処理の現状



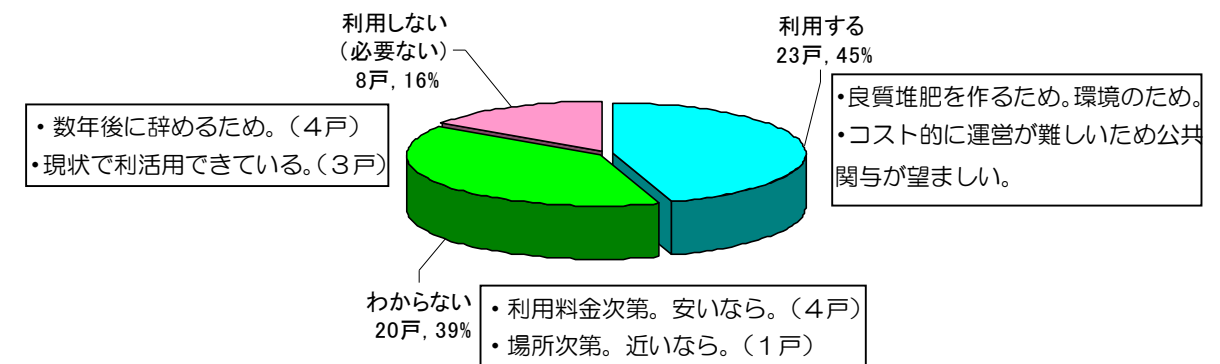
- 小山戸島地域(牛の畜産農家:全51戸、乳牛:約2900頭、肉牛:約600頭)で発生している家畜排せつ物は、134 t / 日(敷料含む)で、そのほぼ全てが飼料畑に農地還元されている。
- 当該地域の飼料畑(445ha)に投入可能な量を試算すると29 t / 日となり、現状はその約3.2倍(93 t / 日)が投入されており、**現状では63 t / 日が余剰な量と推定される。**

3. 畜産農家の意向

Q. 地下水の硝酸性窒素削減対策に関して、行政に要望することは?



Q. 熊本市が家畜排せつ物処理施設を整備した場合、利用するか?



4. 施設の規模及び処理方式

整備施設の規模(スラリーを中心に余剰分受け入れ)・・・約50 t / 日
(現状では63 t / 日が余剰分と推定。平成30年頃には飼養頭数が約2割低減すると予測される。)

